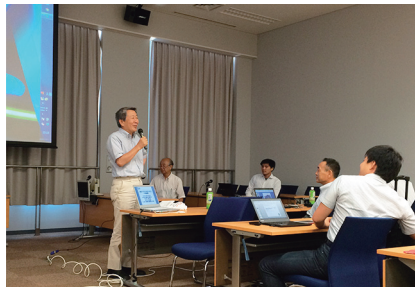


東京工芸大風工学研究拠点は22日、神奈川県厚木市の同大厚木キャンパスで「フィリピンにおける2013年の地震・台風被害に関する研究会」のオープ



東京工芸大

調査概要など6件発表

比の台風・地震被害でセミナー

ンセミナーを開いた。

国際協力機構（JICA）が復興支援を目的に派遣した「ボホール地震及び台風ヨランダ災害後の学校校舎強靱化に関する専門家団」の現地調査結果をベースに、被害調査の概要や、地震・台風災害による建物被害とその軽減対策など6件が発表された。

冒頭、研究拠点のプログラムコーディネーターを務める田村幸雄同大客員教授は、「JICA Aプロジェクトで現地調査し、非常にためになったコンクリートや施工の専門家の話を広く共

有したいという思いでセミナーを開くことにした」と開催趣旨を説明した。続いてJICAの櫛府龍雄国際協力専門員（防災）が「2013年フィリピン災害の被害調査の概要と被害の概況」、名古屋工業大の高橋之助教が「RC建物の地震被害」、五洋建設の清水豊和顧問（建築部門担当）が「地震・台風災害による建物の被害とその軽減対策」についてそれぞれ発表した。

清水顧問はRC建物の被害状況などを説明した上で、柱や梁の主筋位置や屋根の鉄骨工事が

設計図書どおりになっていないケースもあることを指摘し、被害軽減に向けては、「施工者の意識改革が必要になっている」との考えを示した。

休憩を挟んで、職業能力開発総合大学の三田紀行氏が「コンクリートブロック帳壁の被害の概要」、田村客員教授が「台風ハイヤンによる学校建築および大スパン建築物等の風被害の特徴」、京大防災研究所の西嶋一欽氏が「ノンエンジニアド建築の耐風性能に関する現状分析」について報告した。

